

地学オリンピック支援委員会 第1回議事録

2010年12月22日
委員長 田中 義洋

期 日：2010年12月15日（水）18：00 - 20：00
場 所：日本地質学会事務局
出 欠：出席者6名、委任状3名で、委員会は成立

議題

1)委員の紹介 2)地学オリンピックの現状報告 3)本委員会の活動方針 4)今後の委員会活動

1) 委員の紹介

本委員会は、委員9名中7名が中学・高等学校の教員、2名が大学教員である。

委員長 田中 義洋 （東京学芸大学附属高校）

副委員長 川村 教一 （秋田大学教育文化学部）

委員 浅野 裕史 （千葉県立佐原高校）

香束 卓郎 （独協埼玉中学高等学校）

川勝 和哉 （兵庫県立加古川東高校）

小泉 治彦 （千葉県立我孫子高校）

芝川 明義 （大阪府立花園高校）

渡来 めぐみ （茗溪学園中学校高等学校）

担当理事 久田 健一郎（筑波大学生命環境科学研究科）

2) 地学オリンピックの現状報告

2010年9月に第4回国際地学オリンピックが開催され、金1（日本初）・銀3という好成績をおさめた。2011年の第5回大会はイタリアで、2012年の第6回大会は日本の筑波研究学園都市で開かれる。

文部科学省からは「地学オリンピックをほかの科学オリンピックと同等に扱うこと」との回答を得ている。日本地学教育学会や気象学会にも本委員会と同様の委員会が発足し、支援活動を行う。

3) 本委員会の活動方針

短期的には、2012年8月26日～9月2日に開催される第6回国際地学オリンピック日本大会開催に向けてソフト面の強化を図ること、長期的には、支援委員会の活動を通して国際地学オリンピックに関わる地学教育動向を国内に伝えたり日本の動向を発信したりすることを確認した。

4) 今後の委員会活動

活動方針を受け、具体的な活動内容を検討した。

①地学オリンピック広報活動の案

⇒HPを充実し、より多くの人に地学オリンピックに関わってもらいたいサイトにしていく。

⇒とっぷレクチャー（日本地学オリンピック本選（「グランプリ地球にわくわく」にて実施）などの活動を一般にも広く還元する。

②国際地学オリンピックのシラバス検討

・これまで、アジアを拠点として拡がりを見せてきた大会であるが、イタリア大会からは欧米の参加が増えると見込まれており、見直しの時期にさしかかっている。

・参加する国や地域によっては、日本のような「地学」を開講していないことも多いため、このシラバスが国際基準の「地学」の指標となる。

⇒HPなどを活用し、現在のシラバスが国際的にみてふさわしいかどうか、様々な人々から意見をつのる。

③国際地学オリンピックへのオブザーバー派遣

⇒できるだけ多くの方に参加してもらいたいスタンスをとる。

④国際地学教育会議（IGEEO）への参加（4年に1度の開催で、次大会は2014年にインド）

⇒支援委員会の活動を通して、グローバルな視点で地学の情報交換を行い、国内に持ち帰り、それを報告する。